平成３０年度　●●中学校　総合的な学習の時間　全体計画（例②）

第１の目標（学習指導要領）

【学校の教育目標】

豊かな心と確かな学力を身に付けた心身ともに健康な生徒の育成

（１）基礎的・基本的な知識及び技能を習得して，自分のものとして活用できる力の育成

（２）生徒自らが思考を広げたり深めたりしながら，新たな知識や価値を創りだす力の育成

（３）学んだことを自分との関わりで捉え，自分の生活に役立てようとする態度の育成

【総合的な学習の時間の目標】

探究的な見方・考え方を働かせ，地域の人，もの，ことに関わる総合的な学習を通して，目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し，自己の生き方を考えることができるようにするために，以下の資質・能力を育成する。

(1)地域の人，もの，ことに関わる探究的な学習の過程において，課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに，

地域の特徴やよさに気付き，それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。

(2)地域の人，もの，ことの中から問いを見出し，その解決に向けて仮説を立てたり，調査して得た情報を基に考えたりす

る力を身に付けるとともに，考えたことを，根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。

(3)地域の人，もの，ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら，持

続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え，自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 目標を実現するにふさわしい探究課題 | | 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力 | | |
| 知識及び技能 | 思考力，判断力，  表現力等 | 学びに向かう力，  人間性等 |
| １年 | 地域の水産業の現状や問題点と，それに携わる人々の努力や工夫，生き方 | 【別紙】  探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な  資質・能力参照 |  |  |
| ２年 | 身の回りの高齢者福祉の在り方や，その暮らしを支援する仕組みや人々の取組 |
| ３年 | 地域の町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織 |

|  |  |
| --- | --- |
| 教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力 | |
| 情報活用能力 | 言語能力 |

【各教科等における見方・考え方】

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 国語 | | 自分の思いや考えを深めるため，対象と言葉，言葉と言葉の関係を，言葉の意味，働き，使い方等に着目して捉え，その関係性を問い直して意味付けること。 | 体育 | 運動やスポーツを，その価値や特性に着目して，楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え，自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。 |
| 社会 | 地理的 | 社会的事象を，位置や空間的な広がりに着目して捉え，地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で，人間の営みと関連付けること。 | 保健 | 個人及び社会生活における課題や情報を，健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え，疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上，健康を支える環境づくりと関連付けること。 |
| 歴史的 | 社会的事象を，時期，推移などに着目して捉え，類似や差異などを明確にしたり，事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。 | 技術 | 生活や社会における事象を，技術との関わりの視点で捉え，社会からの要求，安全性，環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化すること。 |
| 現代  社会 | 社会的事象を，政治，法，経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え，よりよい社会の構築に向けて，課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。 | 家庭 | 家族や家庭，衣食住，消費や環境などに係る生活事象を，協力・協働，健康・快適・安全，生活文化の継承・創造，持続可能な社会の構築等の視点で捉え，よりよい生活を営むために工夫すること。 |
| 数学 | | 事象を，数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え，論理的，統合的・発展的に考えること。 | 外国語 | 外国語で表現し伝え合うため，外国語やその背景にある文化を，社会や世界，他者との関わりに着目して捉え，目的・場面・状況等に応じて，情報や自分の考えなどを形成，整理，再構築すること。 |
| 理科 | | 自然の事物・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較したり，関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。 | 道徳科 | 様々な事象を道徳的諸価値をもとに自己との関わりで広い視野から多面的・多角的に捉え，自己の人間としての生き方について考えること。 |
| 音楽 | | 音楽に対する感性を働かせ，音や音楽を，音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え，自己のイメージや感情，生活や社会，伝統や文化などと関連付けること。 | 特別  活動 | 各教科等における見方・考え方を総合的に活用して，集団や社会における問題を捉え，よりよい人間関係の形成，よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現と関連付けること。 |
| 造形 | | 感性や想像力を働かせ，対象や事象を，造形的な視点で捉え，自分としての意味や価値をつくりだすこと。 | 総合 | 各教科等における見方・考え方を総合的に活用して，広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え，実社会・実生活の課題を探究し，自己の生き方を問い続けること。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 【学習活動】 | 【指導方法】 | 【指導体制】 | 【学習の評価】 |
| ・地域の実態，生徒の実態を踏  まえ，探究課題を設定する。  ・地域の人，もの，ことを生か  した学習活動を行う。 | ・体験活動を重視する。  ・各教科等との関連を重視した  指導を行う。 | ・全校指導体制を組織する。  ・メディアセンターとしての余  裕教室及び学校図書館の整  備・充実を図る。 | ・観点別学習状況を把握するた  めの評価規準を設定する。  ・個人内評価を重視する。 |